

## 消毒法について

(感染性プリオンに関する手術器具の消毒法)

手術器具の消毒法	感染予防ガイドライン(2003)	診療マニュアル(2002)(p48,49,52-54)	WHO guideline(2000)(p13-16)	その他
SDS	3%SDSで5分間煮沸(p6,7,24,29,38) ※ その後autoclaveとある ※ 剖検では1% (p8,34,38) ※ 完全に消失(p28,38)	3%SDSで3~5分、必ず100°Cで煮沸	5%SDS浸漬は無効 3%SDS煮沸は部分的に有効	
焼却	※ 完全に消失(p28,38)			
塩酸グアニジン	7M(p38)	7M、2時間処理		
グアニジンチオシアネート	3M(p38)	3M、2時間処理	4M	
トリクロロアセテート	3M(p38)	3M、2時間処理		
フェノール	50%以上(p38)	50%以上、2時間処理	無効	
autoclave	132°C、60分(p28,38) ※ 0.001に不活化(p28)	132°C、60分(例) 出来るだけ高温、長時間	121°C、15分	132°C、60分 2006年11月16日大学病院
水酸化ナトリウム(NaOH)	1N NaOHで清拭(p7,8,24,29,34) 2N NaOHに1時間浸漬(p14) ※ 0.001に不活化(p28) ※ 2Nよりも1Nが有効(p38)	1N NaOHで2時間 (2Nより1Nが有効)		
次亜塩素酸(NaClO)	10%次亜塩素酸で清拭(p8,34) 12%次亜塩素酸に1時間浸漬(p14) ※ 0.001に不活化(p28)	1~5%次亜塩素酸に2時間浸漬、室温。		
二酸化塩素			部分的に有効	
蟻酸(HCOOH)	60%以上蟻酸で2時間浸漬(p6,7,24,29) 90%以上蟻酸で1時間浸漬(p38,39)	ガラス器具などSDSを使えないもの 60%蟻酸		
超音波洗浄	40~60°C、35~47Hz、30分(p21)			
乾熱滅菌	134°C、5分、pre-vacuum(p21)		無効(300°C未満)	
Iodophor			部分的に有効	
尿素			部分的に有効	
ホルマリン(HCHO)	無効(p19) 禁忌、洗浄の効果を下げる(p21)	無効	禁忌、感染性が安定化し推まる	
アルコール、アルデヒド	無効(p19) 禁忌、洗浄の効果を下げる(p21)		禁忌、感染性が安定化し推まる	
ガス滅菌		無効	無効(エチレンオキシド)	
煮沸(100°C)		無効	無効	
紫外線照射		無効	無効	
アンモニア			無効	
過酸化水素			無効	
塩酸			無効	
過酢酸			無効	
マイクロ波			無効	
<b>完全な滅菌法</b>				
不完全ながら有効な処理(感染性を0.1%以下にするもの)				
無効				